

一人ひとりがつながり、お互いに支えあえるまちをめざして 第2期港南区地域福祉保健計画

港南区地域福祉保健計画は、区民の皆さまが安心して住み続けられる地域にするために、一人ひとりが地域のことを知って、つながりあい、支えあうための計画です。計画の方向性を8つのテーマで表しています。

地域全体のテーマ

- テーマ1 活動の周知・情報共有
- テーマ2 活動のネットワークづくり
- テーマ3 担い手・人材の発掘
- テーマ4 地域のつながり・交流の場づくり

分野・対象者別のテーマ

- テーマ5 健康づくり
- テーマ6 地域で高齢者の支援
- テーマ7 地域で障害児・者の支援
- テーマ8 地域で子育て支援・青少年育成



必見!

担い手の発掘と活動が続いていくための工夫とは?

テーマ3

担い手・人材の発掘

港南区内では、一人暮らし高齢者の自宅を訪問して庭木の剪定をしたり、親子同士で気軽に交流できる環境づくりなど、様々な取組が行われています。一方、その活動を支える人の高齢化などが進み、活動の停滞や、継続が困難視される活動もあります。そこで、現在活動中のみなさんに、活動の担い手を見つける工夫や、活動を継続していくための工夫などを教えていただきました。

今回は、取材で伺ったみなさんのお話を、4つのキーワードにまとめ、担い手の発掘や活動継続のためのポイントをご紹介します。今、地域のために活動をしている人やこれから新しく活動を始めたい人、身近にこんな活動があったら良いのになと思っている人は参考にしてみてください。

ご協力ありがとうございました!

取材協力:永野地区社会福祉協議会 福祉ネットワークボランティア 庭木担当、ひぎり地区社会福祉協議会、日野南地区社会福祉協議会、ワーカーズコレクティブ コミュニティコーディネーター ここ、セカンドライフ港南中央、芹が谷コミュニティ てとと、横浜市港南中央地域ケアプラザ

キーワード

好き

●好きなことや得意なことが地域の力に!

例えば、得意の料理で会食会を開いて地域の人々の交流の場を開いたり、掃除が好きで近隣の公園や道路の清掃をするなど、「やってあげる」のではなく「好きだからやる」ことで活動を継続しやすくなります。今回取材させていただいたみなさんからも、活動を継続させるには「無理はしないこと」、「自分たちがやっていて楽しい活動にする」ことが大切とのことでした。

●特技や好きなことで活動できる受け皿を作る!

活動の場を作ることで、そこから新たな担い手が誕生しやすいというお話も伺いました。区内にある地域ケアプラザでは、誰もが地域の担い手として自分の趣味や特技を発揮できる場の提供や各種の講座を行っていますので、ぜひ活用してください。



手芸が好きなAさん
一人暮らし。

私の得意な
手芸で何かできる
ことはないかしら?

私と幼稚園のお母さん
達に手芸を教えて
もらえませんか?



いいわよ。喜んで♪
私のお友達も呼んで
おきましょう。



子どもの手提げ袋を作りたい
手芸が苦手なBさん

●元々あるつながりを広げる

今回の取材で、区内で行われている活動の多くは人と人とのつながりから成り立っていて、そこから地域や社会へとつながりが広がっていることを感じました。例えば、幼稚園のお母さん同士のグループが地域の親子の交流の場を開くことで仲間作りの輪が広がります。ケアプラザなどの講座で知り合った人に誘われてボランティア活動を始めるなど、元々あるつながりから担い手が発掘され、さらにそれを別の場所や人へつないでいくことが、活動を長く継続するコツでもあるようです。

キーワード

つながり

キーワード

きっかけ

●担い手を発掘するきっかけのきっかけづくりを

活動の始まりには、各々の様々なきっかけがあったそうです。それは、子どもの卒園や退職などの人生の節目や仲間同士の活動、何かのついで、他人からの感謝の言葉などと様々です。これを逆手に取って「きっかけ」を仕掛けたら、地域で新たな活動や担い手が誕生するかもしれません。

例えば..



今度は何を植えるんですか?
いつも楽しみにしているんですよ。
お陰で散歩が楽しいです。
ありがとう。



喜んでもらえて嬉しいな。
花壇の手入れをボランティアで
始めようかな!

●活動発表でやる気ON!

活動の発表の機会を作ると、やりがいや達成感を実感でき、活動を続けていきたいという気持ちになるそうです。

●広報紙は活動の楽しさを発信するのに効果的!

読者の共感を得て新たな参加者や担い手が発掘されたり、新しいつながりが出来て活動が広がったこともあるそうです。区役所や区社会福祉協議会は、福祉保健に関する情報や地域の活動を少しでも多くの人に知ってもらうために、これからも広報紙などで発信していきたいと思えます。

キーワード

発信

テーマ1

活動の周知・
情報共有

広報と情報共有からはじまる地域の活動

～広報には読み手のことを考えた工夫が満載!!～



自分の地域のことを知りたいときや困ったとき、何かを始めたいときなどに必要になるのは情報です。地域の広報には、様々な活動情報の掲載や読み手のことを考えた工夫がされています。実際に地域ではどのような広報活動をしているのか、野庭団地地区社会福祉協議会と日野南地区社会福祉協議会の取組をご紹介します。

野庭団地地区社会福祉協議会では、1年間の活動を掲載した「ふるさとのば」、定期総会や講座のお知らせを掲載した「社協だより」、ひとり暮らしの高齢者のお宅へ訪問する際に配布している「ささえ愛野庭通信」、介護予防教室の様子や次回の予定をお知らせする「野ばらの会だより」の4種類の広報紙を発行しています。これらの広報紙は、各事業の担当をしている役員が日常の活動や各種委員会活動・行事の様子を原稿として持ち寄ったものを活動の周知を意識しながら編集をしているそうです。

「編集作業は負担に感じることもありますが、パソコンスキルが身についたり、地域へどんな貢献ができたか実感することができます」と、作成にあたってのメリットも教えていただきました。

広報活動による効果は様々なところにあらわれます。一人暮らしの方への訪問のきっかけや見守り活動につながったり、行事への参加が増えて、引きこもり予防につながり顔が見える関係ができたりします。

読者の反応は編集する側にとっては嬉しく、やりがいと事業継続の意欲にもつながります。



いろいろ

色紙を使って季節感を演出!

～野庭団地地区社協の広報の工夫

広報には季節に合わせた色紙を使い、少しでも多くの方に手に取って楽しんでもらえるよう心がけています。また、記事の取材で活動者の方にお話を聞くだけでなく、実際に記事を書いていただくなど、多くの方が広報活動に携わることで活動の周知につながるような工夫もしています。



日野南地区社会福祉協議会では、2種類の広報紙や掲示板回覧、ホームページ、活動パネルの展示など様々な媒体で活動の情報を発信しています。

広報紙は編集委員会の委員が作成を担当していますが、ボランティアが運営している「パソコン相談教室」に協力をいただきパソコンのスキルを磨きながら編集をしています。

町内の掲示板は反響が大きく、高齢者食事会の余興ボランティアを募集した時は、たくさんの応募があったそうです。掲示板を見てもらうコツは「常に新しい情報を更新し続けること」とのこと。立ち止まって見てくれる人も増えてくるようです。

ホームページ「ひのみなみ」は連自治会やボランティアなどで共同運営をしており、ホームページ運営がお互いの活動を知り合う貴重な場になっているとのこと。裏を返せば、こういった情報共有の「バックボーン」があるからこそ、情報の発信がスムーズにいくのかもしれない。



「ひらめき言葉」を使ってひと工夫!

～日野南地区社協の広報の工夫

広報の作成にあたりモットーとしているポイントは「ひらめき言葉」を盛りこむこと。広報は第一印象が大事です。日頃から、新聞や折り込みチラシに目を通し、心惹かれる「キャッチフレーズ」「見出しの付け方」などを勉強しているそうです。



地区社会福祉協議会ってどんな団体? どんな活動をしているの?

住民の協力体制で地域の福祉課題の解決に取り組んでいくための団体です。港南区には概ね連合町内会単位で15の地区社会福祉協議会が組織されています。短く「地区社協(ちくしゃきょう)」とも言われています。



テーマ6

地域で
高齢者の支援

身近な地域の中で相談し、助け合い、 見守りができる関係づくり

～高齢者サロン 上永谷Lウイング「ウイングクラブ」の活動～



港南区においても高齢化率は年々上昇しており、2025年には65歳以上の人口が港南区全人口の31%になると予想されています。

高齢化が進むにつれ、高齢者の単身世帯や夫婦のみ世帯が増加するなど家族の形態が変化するとともに、近隣との関係性の希薄化により、困った時に身近に相談できる人がいないなど、社会的に孤立し、支援が必要な状況が把握されないまま問題を抱え続けるような人が増えてくることが考えられます。

日頃から地域の中で互いに見守り、支えあっていくためには、行事や活動に気軽に参加できる環境づくりが大切です。そんな環境づくりの事例として、上永谷で今年の3月に始まったウイングクラブをご紹介します。



ウイングクラブは、上永谷駅のすぐ近くのマンション「Lウイング」にお住まいの高齢者の交流の場として、今年の3月にオープンしました。2013年5月の時点で、350世帯以上約900人が暮らしています。そのうち約160人が高齢者です。マンション内の交流の少なさと、災害時の安否確認体制を課題に感じていた民生委員の方をはじめ有志数名が発案しウイングクラブを立ち上げました。

ウイングクラブは毎月7のつく日に開催されていて、毎回25人～30人が参加しています。参加は自由で、参加費は100円。初めて参加するときは名前と部屋番号を登録します。お茶菓子等を食べながら、みんなで楽しそうにおしゃべりしています。月に1回は地域包括支援センター「芙蓉苑」の職員が参加して、「健康体操」などの健康講座が開かれる日もあります。

身近な地域の中で相談し、助け合い、見守りができる環境が広がっていけば、今よりもっと安心していきいきと暮らせる住みよいまちになるはず。身近な地域のお付き合いを始めてみてはいかがでしょうか。

